

平成29年度 第5回八王子市多文化共生推進評議会議事要点録

【日時】 平成30年1月19日（金）午後6時30分から午後8時30分まで

【場所】 市民活動支援センター 交流スペース

【出席者】 ◎評議員
森茂座長、遠藤評議員、岡林評議員、河西評議員、シュレスタ
評議員、館山評議員、谷川評議員、児野評議員、ドミー評議員、
マダワラ評議員

◎事務局
新井課長、櫻井主査、柳沢主任、阿部田主事

【欠席者】 なし

【公開・非公開の別】 公開

【傍聴人】 1名

【配付資料】 評議会次第
八王子市多文化共生推進プラン（案）

1 開会
《資料確認》
《新井課長挨拶》

2 意見交換

評議員

- ・事務局に資料の説明を求める。

《事務局より資料1を用いて説明》

評議員

- ・事務局の説明に対して、質問や意見はあるか。

評議員

- ・3つ教えてほしい。16ページ施策No.32に書いてある「多文化共生意識啓発期間
の設定」とはどういう意味か。

事務局

- ・36ページを参照してほしい。これまでは、特にまとまった期間にイベントを行
っていたのではなく、その時の都合等で行っていた。それらを〇〇月間、〇〇

週間のようにまとまった期間に集中的に実施することで多文化共生という言葉の認知度向上や、多文化共生意識の啓発につながることを期待している。まだ、具体的な時期や期間は決まっていないので、良い案があれば教えていただきたい。

ひょうぎいん 評議員

- ・2つ目は、21ページやさしい日本語の活用の部分について。これまでの主な取組みとして、市民向けやさしい日本語講座、職員研修とあるが、こういった内容のものだったのか。

じむきょく 事務局

- ・例えば、本日は、3月に実施予定のやさしい日本語講座のチラシを配付している。市民向け講座はこういったものをイメージしてもらえればよい。このような講座はこれまで何度か実施しており、学園都市センターだけでなく南大沢などでも実施している。
- ・職員向けについては、八王子市役所の職員全体を対象と考えている。これまでも職員向けの多文化共生の研修を何度か行っており、そのなかでやさしい日本語については簡単ではあるが触れている。今後はやさしい日本語マニュアルを作成するなどして推進していきたい。
- ・これに関して、遠藤評議員よりやさしい日本語について情報提供がある。日本語文章難易度判別システムというものがあるとのことだ。遠藤評議員に説明をお願いしたい。

ひょうぎいん 評議員

- ・仕事でやさしい日本語を使う必要がある。日本語文章難易度判別システムがインターネットにあるので試してみたところ、結構使えると思った。例えば、ある県の条例を自分の手でやさしい日本語にしてみるとかなり難しい。こんなものだろうとやさしい日本語にして、このシステムで判別してみると、初級、中級などとわかる。日本語の教科書初級レベルを目標に作業したが、一回では、中級レベルくらいまでやさしくするのがやっとだった。条例などの自治体の文書をやさしい日本語にするには、まず、普通の文章に変換し、その後、やさしい日本語にする必要があると感じた。

ひょうぎいん 評議員

- ・3つ目は、40ページ海外友好交流都市との交流のこれまでの主な取組について教えてほしい。海外友好交流事業補助金制度はどのようなものか。

じむきょく
事務局

- ・本市では、海外友好交流都市が4都市ある。その4都市との交流事業に補助をしている。交流の形態によっていくつか部門があり、それぞれ条件が異なっている。

ひょうぎいん
評議員

- ・個人でも対象となるのか。

じむきょく
事務局

- ・一定以上の人数を定めている。
- ・やさしい日本語に関連して、ドミー評議員から事前に、平成13年に実施された「日本語教育実態調査等」について教えてもらった。よろしければドミー評議員から説明をお願いしたい。

ひょうぎいん
評議員

- ・文化庁が15年ほど前に「日本語に対する在住外国人の意識に関する実態調査」を行っている。最近のデータはないが、内容は八王子でも参考にできるものとなっている。在住外国人がどのくらい日本語を使っているかという視点で行われている。やさしい日本語、日本語の聞き取り能力、話す能力についても調査している。今後、この調査が更新されれば、八王子での多言語に関する事業の参考にすることができる。

じむきょく
事務局

- ・この調査を見ていて面白いと思ったのは、読む力というところで、日本語の文字が読めるか読めないかという質問。581人の回答者のうち、ひらがなが読める人が84.3%、カタカナが読める人が75.2%、ローマ字が読める人が51.5%、漢字が少し読める人が48.5%の順になっている。ローマ字が読める人と漢字が少し読める人の割合にそれほど違いがないという点が興味深い。
- ・以前、この評議会でもローマ字表記が話題にあがったこともあったので、ローマ字よりカタカナの方が読めるという人が多いという調査結果は意外であった。

ひょうぎいん
評議員

- ・本当は、いちばん最初に確認しておかなければならないことだったのだが、この多文化共生推進プランは誰に向けて作るものなのか。

じむきょく
事務局

- ・基本的には、市が行う事業に関するプラン。

ひょうぎいん
評議員

- ・市が「こういうふうにしていきます」ということか。プラン完成後、議会に報告して、市民全体に発表するもので間違いないか。

じむきょく
事務局

- ・そのとおり。

ひょうぎいん
評議員

- ・そういうことであれば、このプランの内容自体もやさしい日本語で書かなくて良いのか。誰でもわかるようにする必要がある。心配しているのは、最近の若者、中高生は文章の読解が不得手になっていて、文章が理解できないせいで数学の問題が解けないという話も聞いた。そこまでのことを考えると、このプランの内容を理解できないという可能性も考える必要があるかもしれない。

じむきょく
事務局

- ・現在考えている案としては、プランそのものは市の施策なので現在の文章の書き方として、その他に簡易版を作成し、それについてやさしい日本語版、英語版、中国語版などを作成するというもの。
- ・この案についてもご意見があればぜひいただきたい。

ひょうぎいん
評議員

- ・言葉の使い方で見えているところがある。16ページの施策No.14に「外国籍等児童生徒等の進路指導の充実」と書いてあるが、等が二つも入っている。
- ・私は、だいたい言っていることが分かるが、理解出来ない人もいるだろうと思う。短く書いているから、このような書き方になるのだろう。どういう意味であるのか定義を書いておく必要がある。
- ・「外国籍等」とは、国籍は日本だが海外で産まれるなどした帰国子女などを含むということでのよいのか。

ひょうぎいん
評議員

- ・「外国につながる子ども」、「外国にルーツを持つ子ども」といった表現もある。
- ・両親が日本に帰化したため、日本国籍となっているが外国にルーツを持つ子どもなども含まれる。

じむきょく
事務局

- ・そのとおり。例えば、アメリカで幼少期を過ごし、中学生くらいで日本に帰国したため、英語でのコミュニケーションには全く問題がないが、日本語でのコミュニケーションに多少不自由がある子どもなどを含んでいる。

ひょうぎいん 評議員

- ・一般には「外国につながる子ども」という表現を使うが、その表現ではいけないのか。両親ともに外国人というケースではなく、片親だけが外国人といったケースも含み、もっとも広い概念だ。

じむきょく 事務局

- ・もともとは別の表現だったが、教育委員会が使っている表現に合わせている。この点については、教育委員会とも相談してどのようにするか検討したい。

じむきょく 事務局

- ・プランに載せる施策という意識で施策名をあげている。しかし、本当に現在の表現で良いのか、別の表現に変更するのか、注釈付けるのかなど様々なやり方がある。いずれにせよ分かりやすいものにしたいと思うので、検討させてほしい。

ひょうぎいん 評議員

- ・「外国籍等」はわかったが「児童生徒等」のふたつ目の「等」はなにか。

じむきょく 事務局

- ・保護者をさしている。

ひょうぎいん 評議員

- ・これは変えた方がよいと思う。

ひょうぎいん 評議員

- ・このプランは外国人市民に見せるものではなく、市が何を行うのかという内容である。これはあくまでプランなのだから、そこまでやっていたらきりが無い。実際に外国人向け施策を行う際に、やさしい日本語を使えば良い。

じむきょく 事務局

- ・文科省は「帰国・外国人児童生徒」という表現を使っている。一般的には、先ほど出ていた「外国につながる子ども」という表現が多いようだ。

ひょうぎいん 評議員

- ・情報提供について、市役所からの情報をわかりやすく提供するためにどのくらい予算がかかるか。やさしい日本語を普及させることにどのくらい予算がかかるか。外国人市民に対するやさしい日本語教室はどのくらいコストがかかるか。海外の事例ではどのくらいのコストをかけているか研究しなければいけない。ただし、人口は少ないし、税金は高い。また、フィンランド語教室に通っている人には補助金が出たりもする。フィンランドはかなり徹底的に外国から来た人にフィンランド語を教えている。やさしい日本語の普及にかかるコストと日本語教室にかかるコストを比較する必要がある。日本語を習得してもらうことで、多言語化しなくても済む。

ひょうぎいん 評議員

- ・10、11ページの主要な課題で項目が7個あるが、外国人市民や外国人観光客への対応のために必要なことは書かれていると思う。日本人の多文化共生意識の醸成について、項目はあるがボリュームが少ない。項目は増やさなくて良いが、もう少しボリュームを増やしてほしい。
- ・2、3ページに「なぜ多文化共生推進のまちづくりが必要なのか」にあげられている、「地域の活性化」、「国際性豊かな市民感覚の醸成」といった部分に書かれていることを活かしてもらいたい。
- ・11ページ「多文化共生意識の啓発、国際理解・国際協力」について。1段落目の「外国人が増えていくことに対して不安を感じたり、心配をしている人がいる」ことは事実であるが、実際に困っていないがこれから困りそうだという、あまり根拠がない不安を感じている人が多い。これは理解が不足していることが課題だ。実際の事象が発生しているわけではなく、取り越し苦労ともいえる。多文化共生意識の啓発によってこんなに良くなるということを書き足してほしい。
- ・八王子市の課題としてあげるなら、啓発よりも醸成の方が適切かもしれない。
- ・留学生の就職支援について、外国人留学生の視点に立った課題が書かれているが、日本人市民の視点に立ったときに、書けるのであれば企業側のニーズを書くことはできないものか。

ひょうぎいん 評議員

- ・11ページ「多文化共生意識の啓発、国際理解・国際協力」という項目なのに国際協力についての記載がない。14ページの施策の柱Ⅲでは、「多文化共生意識の啓発、国際理解・国際交流の推進」と書いてある。表現が似ている部分なので、合わせた方がよい。推進する施策No.34に国際協力が入っているの
で、文章のなかでも整合をとってほしい。

事務局

- ・11ページと14ページの内容は整合を図るようにする。
- ・多文化共生意識の啓発については、もう少し書き方を工夫したい。

評議員

- ・同じ11ページ「多文化共生意識の啓発、国際理解・国際協力」の項目の文章では、日本人と外国人の交流イベントと書いてあるが、それ以外の事業についても書かないとイベントをおこなうだけという印象を与えてしまう。地域における国際理解教育の推進などを追加してはどうか。

評議員

- ・データの使い方について気が付いたことをひとつ。フェイクニュースが流行っているが、「外国人がやってきたから犯罪が増えた。」という意見があるが、先日テレビを見ていたら実際に犯罪を犯している外国人は少ないと報道されていた。実際には日本人の犯罪率も高い。そういうことに対して、「フェイクなんだ」と気がつくようなデータの使い方をしてほしい。

評議員

- ・後ろのデータは施策に関するものなので、そこまで載せていいかどうか。

評議員

- ・プランにふさわしいかどうかはあるが、どこかにそういった気づきを得られるようなリンクがあるといい。

評議員

- ・市長のメッセージに肥沼博士のことが出てくるが、市民でも知らない人が多い、他の自治体の人ではわからない。少し注釈をつけた方がよいのではないかと。

事務局

- ・8ページでは触れているが、市長のメッセージに先に出てきてしまっているの、こちらを先に読んだら分からなくなってしまう。

事務局

- ・もう少し文章を短くして、注釈を入れる。

評議員

- ・4ページの国の動向の部分では、昨年度総務省から発表された多文化共生事例集について触れた方がいい。

ひょうぎいん
評議員

- ・9ページのサポートデスクの相談件数の表だが、和暦と西暦の年がずれている。
- ・在住外国人のサポートデスクと書いてあるが、「サポートデスク」とだけ書いてあっても、知らない人が見たら何をやっているかわからないかもしれない。

ひょうぎいん
評議員

- ・15ページの基本目標に対する指標については、いつ頃に確定させるか。

じむきよく
事務局

- ・現在、法務省や大学に対して調査を行っているので、そのデータが得られ次第となる。

ひょうぎいん
評議員

- ・プランの完成はいつ頃を予定しているか。

じむきよく
事務局

- ・3月を予定している。

ひょうぎいん
評議員

- ・それまでには、数字も確定しているということか。

じむきよく
事務局

- ・2月上旬から中旬には全体が出来上がっている見込みである。

ひょうぎいん
評議員

- ・やさしい日本語講座の実施について、新たに施策に加えることはできないか。

じむきよく
事務局

- ・21ページにやさしい日本語の普及について記載している。その手段の1つとして、やさしい日本語講座がある。やさしい日本語講座は、外国人に向けて日本人が使う日本語を教えるもの。この他に外国人に対する日本語講座はまた別に行う。

ひょうぎいん
評議員

- ・結果として、日本人がやさしい日本語を覚えて、外国人が初級レベルの日本語が

できるようになれば、コミュニケーションがとれるようになる。

ひょうぎいん 評議員

- ・外国人を対象とした日本語を教える講座にも力を入れてほしい。

じむきょく 事務局

- ・館山評議員から指摘があった部分で、11ページの外国人留学生の支援について、企業のニーズがどの程度あるということを書いた方が良いということか。

ひょうぎいん 評議員

- ・数字で書けるか分からないが、外国に由来のある方や留学生を使った海外展開などについての企業側のニーズを書けるかと思った。

ひょうぎいん 評議員

- ・ニーズはある。本日、TAMA協会の事務局長と話をした。企業のニーズはあると答えている。また、留学生からも「なかなかうまく就職ができない」という声もあるようだ。相模原にある外国人留学生をあっ旋する企業がTAMA協会とタイアップしている。この企業は、東南アジア出身の留学生に強みがあり、留学生を企業に紹介するという事業を始めた。TAMA協会では、東南アジア系のものづくりに強い学生と会員企業をつなぐプログラムを始めている。プランの中で、こういった施策についても触れてもらえれば良いのではないかと。

ひょうぎいん 評議員

- ・以前の岡林評議員の話では、優秀であれば国籍は問わないと言っていた。それが背景になっていると思う。

ひょうぎいん 評議員

- ・TAMA協会は、東京西部、埼玉・神奈川の一部の地域の中、小企業が会員になっている。外国人がほしいという声がある。

ひょうぎいん 評議員

- ・1クラス20人いたとして、コンピュータやものづくりに興味があるのは、1人か2人といったところだ。マッチングも単純に数の問題だけではない。

ひょうぎいん 評議員

- ・相当良いマッチングをしないとなかなか就職できないということになってしまふ。企業側も良い人材が見つからないということになる。

- ・企業が「このような人材がほしい」と情報を発信、学生は自分の特技や希望を発信する。相模原の企業は、学生を担当し、TAMA協会は企業を担当している。

ひょうぎいん 評議員

- ・いつ頃から事業は始めているのか。

ひょうぎいん 評議員

- ・昨年の7月くらいから始めていて、Webは秋にはできると聞いていたが、今はどのようなになっているのか把握していない。

ひょうぎいん 評議員

- ・ものづくりの会社は、学生でも技術を持っていないと就職が難しい。留学生は、貿易や商品開発のような綺麗な部門に行きたがる。

ひょうぎいん 評議員

- ・我々の企業も工学系・理工系の学生が欲しい。海外向けの営業マンも工学系でないと、ユーザと話をするにもベースが必要なので、かなり狭まってしまう。

ひょうぎいん 評議員

- ・言葉が話せるというだけでは足りず、何ができるかが大切。

ひょうぎいん 評議員

- ・留学生は、文系が多い。就職は難しいと感じた。

ひょうぎいん 評議員

- ・埼玉県のものづくり大学に校長がベトナム人を紹介した。
- ・ものづくり大学を優秀な成績で卒業した人は、トヨタ等に就職しているからだ。

ひょうぎいん 評議員

- ・数字として出せなくても、評議会でこれだけの意見が出ていればプランの中に書いていくことができるのではないかな。

じむきよく 事務局

- ・数字は、八王子市内という範囲では使えるものが見つかからないが、経産省や日本学生支援機構などの調査で使えるものや評議会での意見を書いていくことになると思う。

ひょうぎいん
評議員

- ・いま話題^{わだい}になっている介護^{かいご}について、八王子^{はちおうじ}にはたくさん^{しせつ}の施設があるが、その後、八王子で介護等^{かいごとう}に従事^{じゅうじ}している外国人^{がいこくじん}のデータ^{でーた}は出てきていないか。

じむきょく
事務局

- ・探^{さが}してはいるが、まだ無^ない状況^{じょうきょう}だ。介護^{かいご}の関係^{かんけい}で、来年^{らいねん}7月に市内^がの病院^しにベトナム^{べトナム}から労働者^{ろうどうしゃ}を受け入れるという話^うが市^{はなし}に入っているが、全体^{ぜんたい}としての人数^{にんずう}などは把握^{はあく}できていない。

ひょうぎいん
評議員

- ・簡単^{かんたん}に取れる数字^とは、いわゆる定点観測^{ていてんかんそく}が良いのではないか。ひとつの施設^{しせつ}で、ある年^{とし}は0だったが、別の年^{べつとし}では1人^{ひとり}、今年^{ことし}は3人^{にん}というふうに。

ひょうぎいん
評議員

- ・このプラン^{ぶらん}が終了^{しゅうりよう}する5年後^{ねんご}を考^{かんが}えると、日本^{にほん}の高齢化社会^{こうれいかしゃかい}の課題^{かだい}、介護施設^{かいごしせつ}での海外^{かいがい}からの人材^{じんざい}の受入れ^{うけい}について、触^ふれておいてもよいのではないか。

じむきょく
事務局

- ・介護分野^{かいごぶんや}については、ここ^こで在留資格^{ざいりゅうしかく}の改正^{かいせい}があったので、これから外国人^{がいこくじん}労働者^{ろうどうしゃ}が増えてくる^ふことが予想^{よそう}される。今年^{ことし}の夏頃^{なつごろ}から技能実習生^{ぎのうじっしゅうせい}として受入^{うけいれ}を開始^{かいし}する^{はなし}という話^{はなし}も入^{はい}っている。
- ・個別^{こべつ}に話^{はなし}は入^{はい}ってくるが、全体^{ぜんたい}の数字^{すうじ}としては把握^{はあく}できていないのが現状^{げんじょう}だ。

ひょうぎいん
評議員

- ・参考^{さんこう}の話^{はなし}だが、日本語学校^{にほんごがっこう}の生徒^{せいと}に「日本^{にほん}に来て困^{こま}ったこと」を発表^{はつぴょう}させたら、言葉^{ことば}の問題^{もんだい}などを言うのかと思^{おも}ったが、「日本^{にほん}は高齢社会^{こうれいしゃかい}で困^{こま}っている」という発表^{はつぴょう}したグループ^{ことば}があった。言葉^{しよきゆう}は初級^{いしき}だが意識^{ひじょう}は非常^{たか}に高く、日本^{にほん}の問題点^{もんだいてん}を把握^{はあく}している。

ひょうぎいん
評議員

- ・台湾^{たいわん}は外国^{がいこく}から介護スタッフ^{かいごすたっふ}を上手^{うま}く受け入^うれている。国^{くに}のサポート^{さぽーと}も強いよう^{つよ}だ。八王子市^{はちおうじし}は、台湾^{たいわん}とのつながりがあるので、今後^{こんご}交流^{こうりゆう}の際^{さい}に聞いてみる^きとい^いい。

ひょうぎいん
評議員

- ・先^{さき}ほどのドミー評議員^{どみーひょうぎいん}の示^{しめ}したデータ^{でーた}を見ていて気^きがついた。日本語^{にほんご}の履歴書^{りれきしょ}を

書くのが難しいというのがあったが、保育園の申込み書類のフォーマットが日本語しかなく、書くのが難しいという話を聞いた。特別区のどこかでは、書き方のサンプルが外国語で示されている。プランでそういう点を改善してほしいと思っている。保育園に関する施策は、教育と福祉のどちらになるのかあいまい。施策No.11に保育関係の所管が入っていない。施策No.16に入ってくるとしても、幼稚園は福祉で良いのかという思いもある。保育園、幼稚園の支援が抜け落ちているので、教育なのか福祉なのかはわからないが、実際に困っている外国人がいるので、きちんと掬い上げてほしい。

ひょうぎいん 評議員

- ・子どもの教育という中では、妊娠期から支援するという方向性になってきている。
- ・その他に気が付いた点として、4ページの「国の動向」のなかで高度外国「人財」と書いてある「人材」ではないか。
- ・個人的な好き嫌いだが、文科省も経産省もグローバル人材という言葉を使っている。「人材」というと人がモノみたいに思える。差し支えなければ施策No.31の「人材」を「市民」と変更するのはどうか。プランでは一貫して「外国人市民」、「市民意識」など「市民」という言葉を使っている。行政として「人材」という言葉を使う必要があるのなら仕方ないが、考えてほしい。

じむきょく 事務局

- ・全体の表現の整合を確認したうえで変更したいと思う。

3 報告事項

- ・今後実施される、関連行事等を説明

4 事務連絡

- ・今後の改定の流れを説明
- ・来年度の多文化共生推進評議会の開催等について説明

5 閉会